

日本現代詩大系

第十卷

日本現代詩大系

第十卷

河出書房新社

日本現代詩大系 第十卷

編集

日夏耿之介

山宮 允

矢野峰人

三好達治

中野重治

大岡 信

昭和五十年六月二十五日印刷
昭和五十年六月三十日發行

編者 中野重治
發行者 中島隆之

印刷 中央精版
製本 中央精版

發行所 河出書房新社

東京都千代田區神田小川町三ノ六

電話(〇三)(一九二)(三七一一)

振替 東京一〇八〇二

目次

色ガラスの街抄……………	尾形龜之助	一五
秋の腫抄……………	八木重吉	一六
貧しき信徒抄……………	八木重吉	一八
夏館抄……………	岡崎清一郎	二〇
韜晦乃書抄……………	岡崎清一郎	二二
第百階級抄……………	草野心平	二三
明日は天氣だ抄……………	草野心平	二五
母岩抄……………	草野心平	二六
蛙全……………	草野心平	二七
定本蛙抄……………	草野心平	二八
絶景抄……………	草野心平	二九

牡丹園抄	草野心平	四
逸見猶吉詩集抄		五
血の花が開くとき抄	大江満雄	五
日本海流抄	大江満雄	五
叛く抄	竹内てるよ	六
花とまごころ抄	竹内てるよ	六
瑞枝抄	黄瀛	六
貧時交抄	菊岡久利	七
時の玩具抄	菊岡久利	七
懸崖・荒地抄	菱山修三	八
望郷抄	菱山修三	八
豊年抄	菱山修三	八
夢の女抄	菱山修三	八
亞寒帶抄	石川善助	八

海に投げた花抄	上田静榮	三
歷程詩集抄	平田内藏吉・松永延造・三ツ村繁藏	四
花咲く日抄	山本和夫	一〇
天地の間抄	藤原定	一三
淵上毛錢詩集抄		一六
ひとつの道抄	草野天平	一八
桃李の路抄	岡田刀水士	二二
谷間抄	岡田刀水士	二三
瀧抄	岡本彌太	二五
體溫抄	間野捷魯	二九
地貌抄	島崎曙海	三三
横田家の鬼抄	及川均	三三
第十九等官抄	及川均	三六
原始抄	池田克己	三七

池田克己詩集抄		一三九
戰場歌抄		一四〇
竹槍隊抄		一三三
神抄		一三四
音楽に就て抄		一三六
合瓣花冠抄		一四二
樹木派抄		一四三
種薯抄		一四四
凍原の歌抄		一四七
北緯五十度詩集抄		一四九
街の百姓抄		一五八
青猪の歌抄		一五九
斷層抄		一六〇
越後山脈抄		一六七

火刑台の眼抄	浅井十三郎	一七
風抄	田村昌由	一七
北方の曲抄	大谷忠一郎	一八
樂章抄	眞田喜七	一八
耕治人詩集抄		一八
水中の桑抄	耕治人	一八
半島の歴史抄	杉浦伊作	一八
聖歌隊抄	中野秀人	一九
緑の左右抄	殿岡辰雄	一九
異花受胎抄	殿岡辰雄	一九
曼珠沙華抄	藤村雅光	二〇
薔薇夫人抄	中村千尾	二〇
高原を行く抄	竹村浩	二〇
かひつぶりの卵抄	中田忠太郎	二〇

足跡抄	明田彌三夫	三〇八
雲抄	黒田秀雄	三〇九
文魚抄	小島敏雄	三一
雪明りの路抄	伊藤整	三二
冬夜抄	伊藤整	三四
北の貌抄	佐伯郁郎	三七
極圈抄	佐伯郁郎	三七
高原の歌抄	佐伯郁郎	三九
木莓抄	山本信雄	三〇
村の外抄	村上成實	三一
北方の詩抄	高島高	三四
山脈地帯抄	高島高	三五
北の貌抄	高島高	三五
左川ちか詩集抄		三六

羊城新鈔抄……………	中山省三郎	三八
縹 緲抄……………	中山省三郎	三八
豹紋蝶抄……………	中山省三郎	三〇
青 狐抄……………	火野葦平	三三
夜の聲抄……………	藤田文江	三四
白 鳥抄……………	丸山豊	三七
未 來抄……………	丸山豊	三八
窓 抄……………	川田總七	四〇
檢溫器と花抄……………	北川冬彦	四一
戦 争 全……………	北川冬彦	四二
氷 抄……………	北川冬彦	四四
いやらしい神抄……………	北川冬彦	四五
園 抄……………	瀧口武士	五七
軍艦茉莉抄……………	安西冬衛	五九

大學の留守抄……………	安西冬衛	二九三
韃靼海峡と蝶抄……………	安西冬衛	二九五
毘 抄……………	村野四郎	二九六
體操詩集抄……………	村野四郎	二九八
抒情飛行抄……………	村野四郎	三〇〇
珊瑚の鞭抄……………	村野四郎	三〇三
白のアルバム抄……………	北園克衛	三〇五
若いコロニイ抄……………	北園克衛	三〇五
圓錐詩集抄……………	北園克衛	三〇六
鯉 抄……………	北園克衛	三〇七
夏の手紙抄……………	北園克衛	三〇八
火の堇抄……………	北園克衛	三〇八
風 土抄……………	北園克衛	三二〇
青魚集抄……………	長田恆雄	三二一

朝の椅子抄	長田恆雄	三三
朱　塔抄	長田恆雄	三五
化粧室と潛航艇抄	折戸彫夫	三六
記號と秩序抄	杉本駿彦	三八
EUROPE 抄	杉本駿彦	三九
山中散生詩集抄		四〇
エスタの町抄	渡邊修三	三三
ペリカン嶋抄	渡邊修三	三三
青の祕密抄	岩本修藏	三三
喪くした眞珠抄	岩本修藏	三四
萬國旗抄	近藤東	三四
紙の薔薇抄	近藤東	三八
ボヘミヤ歌抄	福原清	三〇
春の星抄	福原清	三三

おそはる抄	山村順	三三
空中散歩抄	山村順	三五
花火抄	山村順	三六
海市帖抄	笹澤美明	三八
蜜蜂の道抄	笹澤美明	三九
思想以前抄	安藤一郎	四〇
静かなる炎抄	安藤一郎	四一
解説	中野重治	四六
作者作品及び起句目次		四八

凡例

一 本巻に収載した詩書の多くは今日容易にそれを観ることができないため、能ふ限り原型を保存することに努めた。従つて抄出を餘儀なくされた詩書の目次はすべて各その冒頭に掲げ、収載作品の全貌を窺ふに便とし、序文・跋文も紙幅の許す限り採録した。

一 それぞれ文末に發行年月日・發行所名・判型・頁數・および定價を記して詩書の型態を推測するに便ならしめた。記載中菊半截判（五・九×四・六）等の表示の括弧内の數字は縦五寸九分横四寸六分の謂であり、序文・目次等の頁數が奇數で終つてゐるのは裏白を含むの意を示したものであり、上製・並製本の稱呼は前者はボール厚表紙本綴を、後者は紙裝薄表紙あるひはフランス裝等を表すものである。また序文・目次・本文等の記載の順序は各書の構成の次第による。

一 排次は原則として同一作者の下にその作者の詩書・詩篇を一括し、單行詩書の發行年代順に配列する方針をとつた。但し各作者排次の順は近代詩形成の史的發展を把へるやうの配慮の下に行つた。

一 収載した詩篇はすべて初校本を底本として用ひ、能ふ限り初出雜誌・流布本・全集本等をも参照したが、初校本保存の原則から單に字句においても行替や句讀點などの一般流布本と異なる箇處の若干は、すべて初校本に従つたものである。

一 詩篇の若干について發表當時、檢閲その他の考慮から伏字を餘儀なくされたものは、現在保存されてゐる原稿に據り、或は作者に問合す等可能な限りの方法によつてこれが原型に戻すことに努力した。原型に覆した箇所はその横に*印をもつて示した。但し原型に戻すこと不可能なる箇所は……、×××、或は□□□等により發表當時のままにした。

一 語法・用字などは作者の趣味や慣習によるので多少の混亂も整理せず、ただ漢字・歐語の綴など印刷上の誤りと認められるものはこれを訂正した。

一 卷末に作者作品及び起句目次を附し索引に便した。作者・作品の排次は本卷出頭の順に従つた。

一 本書編纂の資料は主として衣笠靜夫氏の藏書に據る。

第十卷 昭和期（三）

